

昭和三十年（一九五五年）には博士重來を期して、第四回毎日コンペに応募した。G Kメンバー全員に、広島から前田又三郎が参加した。

# 私の履歴書

司 憲 庵 久 栄  
けん へん おん ちく へい

⑤

私が氏に質問したので前田 憲に気がつき、講演終了後、私の後を追いかけてきた。彼は当時、広島大学工学部の学生で、デザインへの思いを語り合った。毎日コンペのテーマが安川電機のモーターだったので、工学部ならモーターに詳しいだろうと前田を東京に呼んだ。彼はマツタに入社したが、デザイン部長で退職後、

## 「茶道具」風のモーター

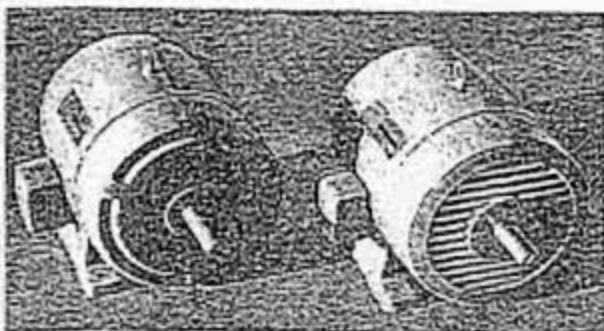
明るく便利に、夜ごと議論

GKとマツタなどで昭和六十二年に設立したデザイン総研 八回までGK関係者や表大の広島の後援が毎回入選、GKは「夜の盗賊、野を走る」と言われ

モーターは鏡物一つ見ても無造作に作られているので、これをデザインするのは三題の難題だ。明るく、修理しやすく、使つのに便利な形にデザインしたら、特選二席（賞金五万五千円）に選ばれた。

作業は完全なチームワークだった。全員で議論して、各

米国のIIT（イリノイ・インスティテュート・オブ・テクノロジー）のデザイン学科教授、コンラッド・ワックスマン氏が来日、十一月に東大工学部でセミナーを開いた。期間は半年間に及んだ。

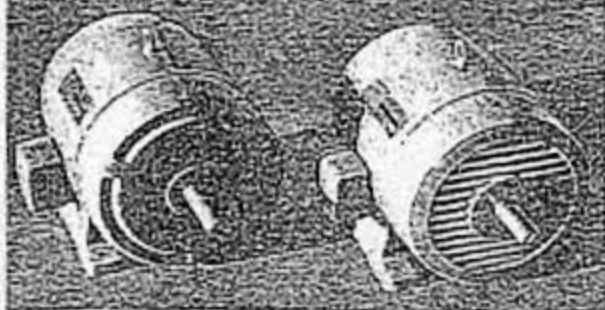


第4回毎日コンペで特選1席を受賞した汎用モーター

で、小学校をデザインするのが課題だ。パイプとコネクタをつなげて三角形のフレームにし、さらにつなげていくと大屋根などができる。二十一人を三人ずつ分けて、プラン、構造、設備など毎週テーマを変えていき共同制作をした。パイプを使って組み立てる意味ではインダストリアル・デザインの分野だった。

セミナーに私はただ一人オートバイで乗り付け、地面につけた片足を軸にオートバイを回転させる芸当を見せたりした。GKデザインのオートバイの処女作YA1だ。優秀な建築科出身者の中で、「自分分はインダストリアル・デザインだ」という思いが派手なパフォーマンスをさせたのだ。このワックスマン・セミナーを受けたことで、私には建築・都市の分野がぐっと身近になった。

（インダストリアル・デザイン）



第4回毎日コンペで特選1席を受賞した汎用モーター

大学院レベルを対象だったが、小池先生は私を推薦してくれた。二十一人の参加者のうち私だけが図案で、ほかは建築科出身。磯崎新が同じグループで、英語の建築技術用語を教えてくれた。

（インダストリアル・デザイン）